人を対象とする生命科学・医学系研究に関する研究計画書概要及び公開情報

研究機関名：筑波メディカルセンター病院

倫理審査承認日：　2023 年 5 月 17 日
研究課題名：前立腺癌 IMRT 患者の排泄日誌に基づく効果的な介入方法の検討 研究期間：倫理審査承認後～西暦　2025 年 3 月
研究対象：2021 年 1 月以降に前立腺癌に対して放射線治療を施行した症例
対象材料： □病理材料（対象臓器名　　）□生検材料（対象臓器名　　） □血液材料　□遊離細胞　■その他（　電子カルテ、排泄日誌　　） 上記材料の対象期間　西暦 2021 年 1 月　～　2022 年 3 月
意義・目的： 直腸体積は、直腸内の便やガスの内容量により左右され、膀胱容積は膀胱内の尿容量により大きく左右されます。前立腺の近傍に直腸や膀胱が存在するため、体内の前立腺癌の位置は直腸容積や膀胱容積により変化します。前立腺癌の放射線治療において、これらの要因で前立腺の位置がずれてしまうと治療結果が不良になってしまうリスクがあるため、当院では直腸内の便やガス、膀胱容積を厳密にコントロールしています。そのために、当院では患者さんご自身に記載していただく形の排泄日誌を採用し、排泄コントロールに役立ててきました。 近年、前立腺癌の放射線治療は、全国的に一回線量を増加し、短期間で照射する方向に進んでおり、当院でも以前は 39 回照射でしたが、現在では 20~21 回照射が採用されています。以前行った研究では、排泄日誌を使用した排泄コントロールの介入により治療開始後 2 週間で直腸の状態が改善するとの結果が出ていますが、短期照射が主流となる現在、より早期に排泄コントロールを付ける必要があり、そのためには下剤や整腸剤等の薬剤の使用もやむを得ないと考えています。今回、過去の排泄日誌を用いて、どのような患者さんにどのような飲水量や食事療法のアドバイスをすればよいのか、どの薬剤をどのタイミングで使えば効率的に排泄コントロールを得られるのかを解析し、今後の前立腺癌の治療においてより効率的な方法を検討したいと考えています。
方法： 本研究は後ろ向き観察研究です。患者さんに対する侵襲は一切ありません。患者さんの排泄日誌と電子カルテからデータを収集し、より効果的な介入方法を検討します。患者さんは、研究への利用をいつでも停止することができます。研究に不参加となった場合も、患者さんに不利益が生じることはありません。申し出をされる場合は、下記の連絡先までお問い合わせください。
問い合わせ等の連絡先 筑波メディカルセンター病院　放射線治療科 大城佳子（代表番号 029-851-3511）